

今回の建碑はこれに倣うことにしたが、墓域の条件から、碑材は石材からブロンズ（青銅）に変更、大きさも縮小して縦一二〇cm×横七五〇cm。扁題の字は大塚恭男先生の筆。碑文の文字数は敬節先生のとほぼ同じく七三四字。矢数圭堂先生が最終校訂された。協賛団体は敬節先生の修琴堂同門会にかわって道明先生の門人会・温知会が加わった。他は同じく、計六団体。その協賛組織名は、黒御影石で作られた台座に刻してある。

碑の製作は高橋史雄事務所（港区六本木三）が担当。碑文は顔真卿書体の既製文字を使用した陰刻（凹）であるが、扁題字はブロンズの性格から陽刻（凸）がよいという意見があり、それに従った。道明先生はどのようなものを好まれるか。それは道明先生が敬節先生に対してなされたことを模範にすればよいと、条件の許す限りこれに準じたが、いま天界の道明先生はいかに思し召しだろうか。

伝通院の墓域は広大だから、矢数家の墓を目星もなく探し当てるのは容易ではない。墓地の入口の受付に尋ねれば、係の僧が台帳を繰って案内してくれると思う。

例会記録

三月例会 平成十七年三月二十六日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、表現技術が育てた一六〜一七世紀の解剖学

坂井 建雄

一、アーチボルド・ガロッドのパラダイム——先天代謝異常症の歴史

深瀬 泰旦

四月例会 平成十七年四月二十三日

順天堂大学医学部十号館四階四〇三号室

一、「バージニア・オルソン物語」執筆で得たGHQ看護改革に関する情報

大石 杉乃

一、近代日本の歴史疫学データベース——紹介と実演

鈴木 晃仁

五月例会 平成十七年五月二十八日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、ロンドンの病院を訪ねて——CAREとCUREの交響——

柳澤 波香

一、大分県公文書館所蔵『昭和十五年監置精神病者に関する綴』

柳澤 波香

一、大分県公文書館所蔵『昭和十五年監置精神病者に関する綴』

柳澤 波香

一、大分県公文書館所蔵『昭和十五年監置精神病者に関する綴』

柳澤 波香

解題

橋本 明